

町 長 所 信 表 明

令和4年6月

新ひだか町

1 はじめに

2 町政に臨む基本理念

～「和」と「輪」をもってすすめるまちづくり。

その先にある「環」に向かって～

3 基本政策

【継続政策】

- (1) 開かれた町政の実現
- (2) 基幹産業の強化と新分野の産業創出
- (3) 防災対策の強化
- (4) 子どもたちの健全育成
- (5) 生きがいの持てる地域社会づくり
- (6) 環境を活かしたまちづくり

【追加政策】

- (7) 町の将来を担う人材づくり
- (8) 町との関わりを持つ関係人口の拡大

4 むすび

1 はじめに

令和4年第4回新ひだか町議会定例会の開会にあたり、町政執行に対する私の所信の一端を申し上げます。

私は、過日の町長選挙におきまして、町民の皆様をはじめ、各方面から温かいご支援を賜り、引き続き町政の重責を担わせていただくことになりました。

無投票での当選ということで、正直な気持ちとして、多くの町民の皆様から信任を得られたという意識にはなれない部分もありますが、それだけに、今まで以上に身の引き締まる思いであります。

1期目を振り返りますと、常に現実の厳しさや難しさなどを感じながらの町政運営であり、また、新型コロナウイルスの感染拡大や赤潮発生による漁業被害など想定していなかった課題も数多く発生しましたが、そんな中でも、今できること、この町の将来にとって絶対に必要なことに勇気を持って取り組んでまいりました。

未だコロナ禍にあり、2期目の町政運営も平坦な道のりではないと

思いますし、町を取り巻く情勢は日々変化しており、先のことを明確に見通すことは難しい世の中ですが、これから申し上げる理念や方針に基づき、新ひだか町の発展に必要な施策を積極的に進めてまいりますので、皆様のご理解、ご協力を切にお願い申し上げます。

2 町政に臨む基本理念

町政に臨む基本理念は、1期目同様、

～「和」と「輪」をもってすすめるまちづくり。

その先にある「環」に向かって～ であります。

2期目にあたり、改めてその意味するところに触れますと、一つ目の「和」は、なごみを意味する言葉であり、「互いを知り、助け合いながら、心が通う人間関係を作る」ということでもあります。

「どんな課題にも必ず解決の道はある」というのが私の信条の一つですが、そこには、相手が何を考え、何に困り、何をしたいのかというような部分を知り、互いの考えを尊重しながら、先のことを一緒に考えていくような良好な人間関係が必要であります。

二つ目の「輪」は、円のように丸く繋がる状態を意味する言葉ですが、一つ目の「和」により心が通う人間関係ができれば、「互いに手を結びながら、1つの方向へと進んでいける」と考えています。

人にはそれぞれ様々な考えがあり、異なる主義・主張が衝突する場面も出てくると思いますが、そんな時こそ、互いを否定・批判し合うのではなく、相手の事情などにも配慮しながら、手を取り合っ取組を進めていくことが大切であると考えています。

そして、三つ目の「環」は、めぐるを意味する言葉であり、心が通う人間関係のもと、関係する方々が協力・連携しながら取り組んでいくことができれば、その先に「循環型経済、社会、環境などに配慮した生活が成り立っていく」と考えているところであります。

相手に与える影響などに配慮しながら、互いを助け、高め合えるような地域内循環を作ることができれば、活力のある地域として持続・発展していくことができると考えています。

3 基本政策

次に、2期目における基本政策については、1期目から掲げている6つの政策項目に加え、新たに2つの政策項目に重きを置いて取り組んでいきたいと考えています。

1期目からの継続政策としては、「開かれた町政の実現」、「基幹産業の強化と新分野の産業創出」、「防災対策の強化」、「子どもたちの健全育成」、「生きがいの持てる地域社会づくり」、「環境を活かしたまちづくり」の6つであり、これらについては、これまで作り上げてきた施策の効果を更に向上させることができるよう、必要な見直しなどを繰り返しながら、深化・拡充していきたいと考えています。

新たに加える政策項目としては、「町の将来を担う人材づくり」と「町との関わりを持つ関係人口の拡大」の2つであり、大きく言うと「ひとづくり」への取組であります。

1期目の町政運営の中で、様々な分野の現状を見させていただき、関係する方々からお話も伺いましたが、その中で強く感じたことは、どの分野も様々な課題を抱えながらも、その解決に向けて主体的に考

え、取組を推進していくような「核」となる人材が不足しているという現実であります。

「ひとづくり」のような取組は、すぐに成果を出せるものではありませんが、この状況を改善していかなければ、町の中に新たな動きや価値などを生み出すことは難しいと考え、2期目における重点政策として掲げたところであります。

新たな柱の一つである「町の将来を担う人材づくり」については、わが町が誇る「馬」を通じたふるさと教育に力を入れたいと考えており、既に軽種馬関係者との連携による「うまキッズ探検隊事業」などに取り組んでおりますが、今後は、このような取組が町内全ての小学校で継続的に行われ、馬産地で生まれた全ての子どもたちが当たり前で体験する教育機会として構築していきたいと考えています。

これは単に、軽種馬業界で働く人材を育てるということではなく、「馬」を通じて地域内にある様々な仕事や人を知るとともに、馬に触れた時の温もり、命の尊さ、美しい風景などを体感することで、その子が大人になっても、故郷を気にかけて、何らかの形で町に関わってく

れることを期待しながら、取組を続けていきたいと考えています。

また、子どもたちが自発的に学ぼうとするきっかけを作るため、急激に進展しているグローバル化の流れも視野に入れながら、語学教育や短期留学など、英語力や国際感覚を身に付けるための取組を後押しする仕組みを作りたいと考えています。

次に、二つ目の柱である「町との関わりを持つ関係人口の拡大」については、継続的に取り組んでいる移住の促進や観光客の誘致だけではなく、この町の住民でなくても、様々な形でこの町にプラスの影響を及ぼしてくれる人材を丁寧に増やしていきたいと考えています。

特に、令和4年中にも指定されると思われる日高山脈の国立公園化は、多くの方々が新ひだか町に足を運ぶ契機にもなることから、関係機関と協議しながら必要な環境整備に努めるとともに、国立公園としての魅力を積極的に発信していきたいと考えています。

また、以前から運用している「ふるさと納税制度」については、単に財源を集めるだけのツールではなく、当町の魅力を全国各地の方々

に知ってもらい、一人でも多く新ひだか町のファンを獲得していく意識をもって、制度の運用を工夫してまいりたいと考えています。

4 むすび

以上、2期目の町政運営にあたり、私のまちづくりにかける思いの一端を述べさせていただきました。

「言うは易く行うは難し」と言うように、掲げた政策を実行に移し、成果を上げていくのは容易ではなく、行政だけでは乗り越えられない課題も多々出てくると思いますが、ただ今申し上げた理念や方針に基づき、関係する方々と知恵を出し合い、力を合わせて、取組を着実に前進させていきたいと考えていますので、町民の皆様、議会議員の皆様、そして関係機関の皆様のご理解、ご協力を心からお願い申し上げ、2期目の町政運営にあたっての所信表明といたします。